

# 新潟産業大学報

# 青海波



第5号

発行日 平成5年4月1日  
発行 新潟産業大学  
編集 新潟産業大学広報委員会  
新潟県柏崎市大字整井川4730番地  
TEL 0257-24-6655  
FAX 0257-22-1300

## 「広く学ぶ——」 一芸教育は可能か

学長 金田 一郎

これまで、この学報でもしばしば、創造性は広い知識の上に培われることを強調してきた。

ところで、最近、大学教育の新しい方向を摸索する議論の中で、一芸に秀でた人材の発見、育成を主張する向きが一部に見られる。その事が簡単になしうるものならば、敢えて反対する理由もない。

しかし、そのような主張は、かなりラフな形でなされている場合が多いようである。その場合、色々な弊害がもたらされる恐れがある。特に、一芸に秀でていればあとはどうでもよい、というニュアンスで主張されると、甚だ危険である。折角の一芸も伸び切らずに終って了うことにもなりかねない。

そもそも現代の世の中において、一芸に秀でるといふような事がありうるものであろうか。ないわけではないが、それがありうる領域はかなり限られているように思われる。

学問の領域では、一応、数学が考えられる。数学はいわゆる自然科学の中で唯一の非経験科学で

あり、その体系は、定義、公理の設定と、純粹に論理的な手続きによつてそれから定理、系を抽出することによつて構築される。公理の設定のあとは、経験に依らずに純粹な論理の操作だけで片付くことが、一芸として独立に成立しうるような印象を与えるのであろう。

ところで、定義、公理の設定は本来、恣意的になしうるものであるが、全く人間性に関わらないもの、既存の公理を少々いじくつた程度のものなどは意味をもたない。また、定理、系を展開する方向も、数学者の抱く価値観と無関係ではないであろう。そこに、文化の関わる余地が出て来るものと思われる。

フランスの数学者ルネ・トムが、博物館で見た生物の胚の発生の模型に触発されて、独自のカタストロフィー理論を展開したことも、うなづける。

数学の世界も、現代の発展段階では、他の領域、更に言うならば文化一般との関わりが強くなつてきているようである。芸術の世界では、一芸の育成は、

より可能なようにも見受けられる。確かに、技を磨くことに関して言えば、他に目もくれずに一芸に集中することが効果的である、と云えるかも知れない。

しかし、例えば、ピアノの演奏一つ採り上げてみても、芸術性の高さは、単に技だけの問題ではなさそうである。演奏の背後にある一般的な教養、思想が重要であり、それが演奏の深さに関わり、芸術性の高さを支えている、と云える。つまり、ここにも文化が微妙に関わっているのである。

最近では、ピアノやヴァイオリンの演奏の分野で国際的な賞を取る日本人が多くなってきている。確かに、彼らは技に関しては欧米人に引けを取らない水準に到達している。しかし、巨匠の域に達するには未だ大分距離があると言われるのは、やはり文化の違いによるものであろうか。つまり日本人にとっては文化的ハンディキャップということになるのであろうか。

日本のオーケストラも、最近技術の水準が非常に上がってきている。しかし、ウイーン・フィルやベルリン・フィルのような持ち味を出すには、もう一歩というところであらうか。

一つの文化を理解し習得するためには、相当の努力を要するようである。

さて、結論的に言いたい事は、現代の世の中において、一芸にのみ秀でるといふことはそう簡単ではない、ということである。特に教育の世界において、一芸に秀でた人間を育成するなどということとは、軽々に言えることではない。勿論、長い学習の過程で一芸に集中するという段階はあつてもよい。それが効果的な場合も多いであろう。大学入試の段階で一芸に秀でた人間を選ぶことは、それなりに意味のあることである。

しかし、大学教育が文字通りの「一芸」主義に終始したのでは、折角の才能も伸び切らずに終つて了うことであらう。一芸を伸ばすためにも、多くの分野に互る広い学習が必要である。一芸を伸ばすということが、専門馬鹿の生産につながつてはいけない。そもそも、専門馬鹿は専門家としても大したものではないであらう。専門の分野だけでなく、隣接領域、一般教養科目に互る教育——それが、本学の目指す教育である。因みに、アメリカの研究者が、創造性が豊かであり、プロダクティブである理由の一つも、その広い学習・研究にある。

学生諸君も、それらの事柄を念頭に置いて、目先に捉われず、専門領域以外の分野についても広く貪欲に学んでもらいたい。

# 世界のなかのフランス語

副学長 川村克己

一八九六年、フランス人のピエール・クーベルタン男爵が、古代オリンピック競技の復興を目指したとき、彼はそこで用いられる公式の言葉としてフランス語とすることにしました。オリンピック憲章の第十八条に「国際オリンピック委員会（International Olympic Committee）の公式用語はフランス語と英語とする。（・・・）フランス語で書かれた文言と英語で書かれた文言との間に差異が生じた場合、フランス文のものを優先させる」と記されています。十九世紀は、フランス語が、様々な外交語で世界に君臨していた時代であったと言えます。一八〇〇年にイギリスの外務大臣グレンヴィル卿は、外務当局に協力する人たちに、フランス語でなくて、英語を使用するようにと要求したそうですが、これはひっくり返して解釈すれば、外交の用語として、フランス語がはばをきかせていたことを意味しているとしてよいでしょう。ロシアでは外交文書にフランス語を使用していましたし、プロシアでも一八六二年まで同様のとりきめをしていました。ス

ウェーデンの王、シャルル十四世はフランス語を用いて、一八四四年に死ぬまで、スウェーデン語を学ぼうとしなかったと信じられないような事実があります。それも、二十世紀に入るや、いまままで保ってきたフランス語の勢力は、徐々に後退して英語に変わらされました。一九一九年のヴェルサイユ条約は、英語とフランス語で綴られ、時のフランスの首相クレマンソーは、フランス語の外交語としての権威を強調したようですが、その後の外交文書は少しづつ英語にその地歩をゆるぎようになつてきました。現在国連では公用語としてフランス語が第二の地位を保っていますが、全体として、一〇パーセントをこえないで、ほとんどで英語が使用されています。国際条約のなかで、フランス語が用いられているのは、万国郵便連合ぐらいのようです。

といえ、フランス人が自分たちの言葉を愛し、その純化に常日頃心がけているのは、他の国々よりぬきんでいていると思われまふ。フランスの思想や文芸で、古典主義といわれるすぐれた文化を完成させた十七世紀、ルイ一四世のもので創設され、現在もつづけられている機関にアカデミー・フランセーズというものがあつます。三十名の知識人によって毎週会合がもたれているこの組織は、フランス語の純化を計るための辞書と文法を作ることを目的として存続しています。また外国にフランス語とフランス文化を浸透させるための組織団体が、十を超えるほどにありまふ。半官半民のアリアンス・フランセーズという組織は、海外でのフランス語普及に努め、六〇〇以上の教育機関を設置しています。日本にも四つをこえる地域にセンターを設けています。ぼくの友人松崎文則君が創設した新潟フランス協会でも、アリアンス・フランセーズを新潟に誘置しようと努力しています。

フランス語が、十を超えるほどにありまふ。半官半民のアリアンス・フランセーズという組織は、海外でのフランス語普及に努め、六〇〇以上の教育機関を設置しています。日本にも四つをこえる地域にセンターを設けています。ぼくの友人松崎文則君が創設した新潟フランス協会でも、アリアンス・フランセーズを新潟に誘置しようと努力しています。

フランス語が、十を超えるほどにありまふ。半官半民のアリアンス・フランセーズという組織は、海外でのフランス語普及に努め、六〇〇以上の教育機関を設置しています。日本にも四つをこえる地域にセンターを設けています。ぼくの友人松崎文則君が創設した新潟フランス協会でも、アリアンス・フランセーズを新潟に誘置しようと努力しています。

フランス語が、十を超えるほどにありまふ。半官半民のアリアンス・フランセーズという組織は、海外でのフランス語普及に努め、六〇〇以上の教育機関を設置しています。日本にも四つをこえる地域にセンターを設けています。ぼくの友人松崎文則君が創設した新潟フランス協会でも、アリアンス・フランセーズを新潟に誘置しようと努力しています。



パルム・ザカデミック勲章オフィシェ受勲会場にて（1/14）

ナダ、ハイチ、西アフリカ、そのほかで極めて広範囲に及んでいます。これらはすべてフランスコフォーン（Franco-Cofone）の地域と呼ばれるものです。フランス語人は全世界で推定八千万の有力言語（主要言語中の第十二位、日本語は一〇位）と見なされています。西欧諸国で外国語を話す人のうち、フランス語を話す人の比率の高いことは当然で

すが、世界各国の中・高等教育課程でのフランス語学習の多いことは今もなお目を見はらせるものがあります。それにしても「世界のなかの日本語」はいついどれほどの地位を持つているのでしょうか。どれほどの努力をわれわれ日本人はしているのでしょうか。

フランス語が、十を超えるほどにありまふ。半官半民のアリアンス・フランセーズという組織は、海外でのフランス語普及に努め、六〇〇以上の教育機関を設置しています。日本にも四つをこえる地域にセンターを設けています。ぼくの友人松崎文則君が創設した新潟フランス協会でも、アリアンス・フランセーズを新潟に誘置しようと努力しています。

フランス語が、十を超えるほどにありまふ。半官半民のアリアンス・フランセーズという組織は、海外でのフランス語普及に努め、六〇〇以上の教育機関を設置しています。日本にも四つをこえる地域にセンターを設けています。ぼくの友人松崎文則君が創設した新潟フランス協会でも、アリアンス・フランセーズを新潟に誘置しようと努力しています。

# 新入生を迎えて

勉学のすすめ

学部長 佐藤 一弥

新入生諸君、御入学おめでとう。

開学以来の難関を突破して入学された諸君は、さぞかし希望と期待に胸をふくらませて校門をくぐったことと思うが、何十年も教師をやってきた僕にとっては、

年々歳々花相似たり  
年々歳々人同じからず（唐詩選 劉廷芝）の心境である。

諸君を迎えて、先ず言っておきたいことは「初心忘るべからず」（世阿弥）ということである。諸君にとって、これからの四年間は永いようでも、またたく間に過ぎてしまう。「少年老い易く学成り難し」である。学問に大道はない。ただ真剣にとりくむことによって、無限の滋味が湧いてくるものと思う。食欲に読み、深く考える習慣を早く身につけてほしいものである。

All roads lead to Rome. (すゝての道はローマに通ず)

第二に、何事についても途中であきらめず、最後までやり通す意地をもってもらいたいと思う。

Even a worm will turn. (徹虫もなお向かい来ることあり。一寸

の虫にも五分の魂。)

ロシアの文豪ツルゲーネフが愛犬をつれて庭を散歩していた時、一羽の子雀が飛んできた。犬はこれを見つけて忽ちこれにじゃれつた。犬にとってはただの遊びでも、子雀にとっては生命の問題である。そこへ親雀がサッと下りてきて猛然と犬につつかかった。さすがの犬も必死の親雀にたじろいだ時に、子雀は逃げた。ツルゲーネフは書斎に帰って、静かにこれを散文詩に書きとめたという。今回は諸君に対して二つのことをお願いした。諸君はこれからの四年間で、本学の学長である主体的・創造的の材として大いに活躍していただきたいと思う。



# 平成5年度

## 入試を振り返って

入試委員長 沼 岡 努

去る2月22日に行なわれた「一般入学試験B方式」、「留學生入学試験」を以て平成5年度入学者選抜試験が全て終了した。昨年10月の「スポーツ推薦入学試験」以来5ヶ月近くにわたる長期戦であった。幸いこの間、然したる困難や不測の事態も起きず比較的順調に事を進めることが出来た。全学協力体制の賜物とつくづく思う。

さて、今回の入試は、その基本的枠組み——推薦入試、一般入試、大学入試センター方式入試——においては前年度を踏襲したが、これらの各入試制度を個々に再検討し、特に出願資格、試験科目の点で新しい試みを受験生に打ち出したものであった。推薦入試においては、従来の受験資格から「現役・一浪」の枠を取り去るとともに、「成績概評3.5以上の者」という条件を「3.2以上の者」と改めた。だが、一番大きな改正点は、高校長の推薦書のかわりに「自己推薦書」の提出を求めた点であった。これは、勉学、スポーツ、技能、

資格等、様々な能力や可能性を秘めた若者たちに受験の機会を少しでも広げようという趣旨の下に導入したものであった。この基本的な考え方、方針を更に一般入試、センター方式入試にも反映させ、試験科目の改正を図った。たとえば一般入試では、前年度の二科目試験型入試のほかに、「一般入学試験B方式」を新たに設け、一科目選択型入試を実施した。センター入試においても英語を必須科目からはずし、全科目中、任意の三科目選択という受験生側にとっ

てかなり選択自由度の高い入試を実施した。結果として見れば、各入試区分共、前年度よりも総じて高倍率かつレベルの高い入試となった。推薦入試は定員60名に対して出願者502名(倍率9.4倍)、一般入試では、A方式の定員150名に対して出願者一、六百七名(倍率10.7倍)、B方式に至っては定員40名に対して実に一、三十七名(倍率3.4倍)の出願者を記録した。センター方式入試

は唯一出願者数の減少した入試区分であったが、定員が昨年度よりも20名少ない40名となったため、競争倍率では10.8倍へと上がった。高倍率は当然ながら合否ボーダーはの引き上げにつながり、昨年度は推薦、一般両入試共、総合点の約6割がボーダーであったが、今回は、推薦入試で7割強、一般入試A方式で6割、一般入試B方式で7割、センター方式入試で約7割5分(面接点を含まず)がそれぞれ合否のボーダー・ラインとなった。

次に、今回の入試を質的な側面に着目して若干傾向或いは感想を述べてみたい。先ず推薦入試に関してであるが、指定校推薦制の場合には昨年同様、各高校がその高校を代表するような人物、成績共に実に優れた受験生を、概ねこちらの期待通り送って下さった。この点については今後も継続的に各高校にお願いしてゆきたい。これに対し、自己推薦制は本人が自己の優れた点を大学側にアピールする趣旨のものであるから、「熱っぽい」面接を期待していたが、自己を積極的に売り出すのは「緊張している」受験生にとっては少々困難なようであった。(東京の某大学ではビデオ・テープを願書に添えて提出した受験生もいたとか。)結局、合格者の顔ぶれを平



均的に表現すれば、英語68点、調査書82点(評定平均値4.1)、面接を可もなく不可もなく終えた者たちということになる。勿論、英語調査書だけを考えても、これらの点数を上回ること自体、日頃かなりの努力を要することなのだが、一般入試に関しては、やはりB方式の倍率が印象的であった。この高倍率現象を引き起こした要因は幾つか考えられようが、単に「一科目型」入試をその要因に帰することは出来ないだろう。周知のように、この種の入試は何も目新しいものではない。国立大の一部でも何年か前から採用している方式である。今回、東京の私大では18才人口減少の波を受け、出願率が低下した大学がかなりあると聞いている。幸い本学ではB方式に限らず、どの入試区分においても出願率の上昇が明確に見られた。このことから、B方式の高倍率現象は、創設以来の本学のまじめな研究体制、教育・指導体制が高校の進路指導担当者や受験生に広く知られるようになってきたことを示すものとして受け止めたい。

センター方式入試は、英語を必須科目からはずしたため、出願者数の大幅な増加を予想していたが、試験科目を一科目増やしたためか、さ程の増加は見られなかった。だが、三科目入試としたため、従来

\*本年度入試状況結果報告\*

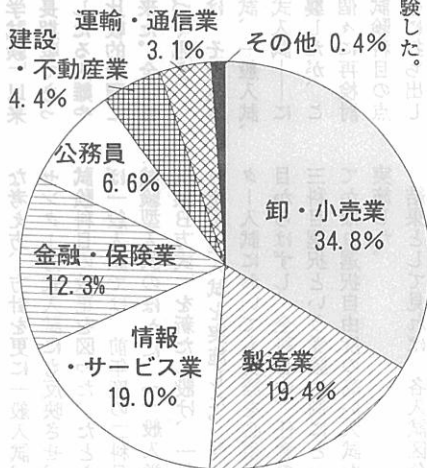
入試区分	定員	志願者	合格者	合格最低点
スポーツ特別推薦	若干名	62	17	—
推薦	約 60	562	188	185/250
一般 A	約 150	1,607	270	121/200
一般 B	約 40	1,377	106	142/200
センター	約 40	434	122	222/300
留学生	若干名	5	2	—

の私大受験型受験生の出願が伸びず、国立大受験者の受験率が高まり、結果、合否ボーダーは前述したようになりかなり高いものとなった。以上、平成5年度入試の概況を結果分析を中心に述べてきた。だが、分析とはいえ、未だ資料を完全に消化しきれてはいない段階なので、今後一層詳細な検討を加え、それらを来年度入試の立案の際に役立てたいと思う。

■平成5年3月卒業生の就職先(都道府県別)及び進路状況(平成5年3月31日現在)  
 ※( )内の数字は、内数で上場企業への就職者数を表す。

企業の所在地	就職者数
北海道	2名
宮城県	1名(1)
山形県	2名
福島県	4名(2)
茨城県	2名
栃木県	2名
群馬県	9名
埼玉県	2名
千葉県	1名
東京都	20名(2)
新潟県	上越 6名 中越 56名 147名(19) 下越 85名
富山県	10名(1)
石川県	4名
長野県	9名(1)
山梨県	1名
愛知県	3名(2)
京都府	1名
大阪府	4名(2)
兵庫県	1名
島根県	1名
岡山県	1名
就職者合計	227名(30)
進学	6名
卒業生合計	233名

幸い最終的には、学生の粘りと県内及び隣接県優良企業の着実な定期採用に支えられ、就職希望者の内定率は百パーセントを達成できた。特に、内定を取り消された学生達は奮起し、会社規模では一ランク上の企業に、



世紀末不況の到来によって、平成4年度の就職戦線は厳しいものとなった。企業主導で早くから始まり、長期にわたって苦戦を強いられた。内定取り消しという事態も(三人)初めて経験した。

### 就職課から

希望職種で就職をきめた。総じて第二回卒業生にとっては、不運な年の巡り合わせとなったが、逆境を乗り越えてたくましく成長した姿は、頼もしいかぎりである。



CAMPUS  
SCHEDULE

- 4 入学式 4 / 5  
ガイダンス 4 / 6 ~ 8  
前期授業開始 4 / 9  
新入生学外合宿 4 / 10, 11  
就職懇談会 4 / 20
- 5
- 6 大学創立記念日 6 / 2
- 7 補講 7 / 14, 15  
前期末試験 7 / 16 ~ 22  
夏季休暇開始 7 / 23  
集中講義 7 / 23 ~ 8 / 7  
アメリカ短期留学 7 / 24 ~ 8 / 12
- 8 集中講義 9 / 2 ~ 16  
補講 9 / 16, 17  
夏季休暇終了 9 / 17  
後期授業開始 9 / 20
- 9
- 10
- 11 大学祭 10 / 30 ~ 11 / 1
- 12 冬季休暇開始 12 / 20 ~
- 1 冬季休暇終了 1 / 6  
補講 1 / 17, 18  
学年末試験 1 / 19 ~ 2 / 1  
春季休暇開始 2 / 2  
スキー授業 2 / 1, 2
- 2
- 3 卒業式 3 / 19

21世紀を目前に、時代の変化は急激で、その流れの方向は複雑になるばかりです。人は全て良しにつけ悪しきにつけて、時代精神に大きく影響されて生きていますが、学園生活は実社会から部分的に隔離された場に身を置くという意味を持っていきます。そしてその中でこそ利害得失を越えた行動が可能であり、学問や友人を通して将来の基盤作りがなされ、生涯の財産を得ることができるとあります。しかし、隔離された社会とはいつても、現実から余りに遊離し、反抗するものであつては発展は望むべくもありません。現実を越えた真の自由と高い道徳が要求される社会こそがその理想です。



一年生は、大学の授業も生活も何もかもが新しく、希望に燃えていることでしょう。四年間を通じたカリキュラムの骨組みを理解し、進路をにらみながら、必修科目を確実にこなさえてください。高校と大学の違いに注意して、自主的に勉強するということが大切なことです。二年生は、コース(現代経済、経済情報、情報処理)を念頭にお

三年生は、ゼミナールに全力を投入してください。当然のことですが、一度でも休んではいけない。ましてやゼミのレポーターにあたっている時に無断で欠席するということとは、絶対にあってはならないことです。(単位が不要というのなら別ですが)ゼミの先生の担当科目は原則として、すべ

四年生は、卒業単位、卒業条件を完全にクリアできるかどうか細心の注意を払うことと、就職活動とゼミナール活動が中心になります。就職の為に、ゼミナールを欠席することのないように注意してください。むしろゼミナールに熱心な学生の方が情報豊かになるせいか就職活動の方もリードして行くようです。重要なことは就職がせつかく決まりながら、卒業条件に単位が不足して、卒業できない人が、毎年必ずいるということに注意を払ってください。出席状態が悪く、試験すら受かられないということもあり得ますから、大学にはいつも来るようにしていきましょう。

入学おめでとう

学生部長 村山 実

新入生

オリエンテーションについて

教務部長 山崎 一輝

履修すべきでしょう。ゼミの時間は、十分に準備をして、活発な議論をするようにしてください。ゼミナールを生かすことが、大学生活そのものの鍵になるともいえるのですから。

# バルセロナに滞在して

〔バルセロナ五輪と私〕

学生時代、体育学部で学びスポーツマネージメントを専攻した私は、オリンピックという一大スポーツイベントが、人々のスポーツ観や、スポーツ行動に、どのような影響を及ぼすのかに大きな興味を抱き続けてきた。そして、オリンピックとそのマネージメントを直に観察することは、予てからの夢であった。その夢が、92年夏バルセロナで実現したのである。

バルセロナ自治大学オリンピック研究センターに机を借り、そこに収集された書籍及びコンピュータ通信サービスでオリンピックの準備と運営に関する情報を得た。又、地元のスポーツ施設やクラブ、選手強化機関なども訪ねた。オリンピック開幕直前にスペインの南端マラガ市で開催された「オリンピック科学コンGRESS」にも参加し、世界各地の研究者の報告も聴くこともできた。

〔バルセロナ市民の生活〕

バルセロナは、自治権を持つカタルーニャ地方の首都で、90年現在で100平方キロ弱に173万人余の人



↑オリンピックメイン会場前

←オリンピックメイン会場入口広場

助教授(体育科目担当)  
廣川 俊 男



口を有する世界有数の人口密集地域だ。市内のほとんどの道路の両側に3〜10階の建て物がすき間なく並び、その2階以上は大部分が住居に使用されている。商店やオフィス専用ビルは極端に少ない。又、駐車場も不足している、どの道路も路上駐車で一杯だ。車間はぎりぎり30センチ程。前後がくっついているのも相当ある。

最初に日本人が一番困ったのは生活時間の違いだ。もともと経度から見れば9

時間ある時差を、彼らは夏場なら7時間差で生活している。つまり時計を2時間進めた感じの生活だ。朝は6時に夜が明け、7時に市場、8時には郵便局や銀行が開く。学校や商店は9時頃開始。どこでも10時から11時頃にかけて順番にコーヒータイムを取り、昼休みは13時30分頃から16時頃にかけて2〜3時間をとる。商店は昼休みには閉めて17時頃再開する。日が暮れるのが21時30分で夕食は22時前後。就寝は0時頃。つまり一日をかなり長く使う。

昼食の定食メニューには必ずワインかビールがついてくる。大学の食堂でも同様だ。缶ビール一本50円程度。

学校は6月23日から9月15日まで夏休み、冬休みも春休み(聖週間)もある上、完全週休2日だから年間170日しか授業がない。夏休みなど0時過ぎて子ども供達の遊ぶ声はきこえる。だからバルセロナの人は寝起きが悪いのか、朝はみんなブスツとしていて。又、家で朝食をキッチンととる人はいないよう、朝からカフェが繁盛している。

〔バルセロナ五輪開幕の朝〕

時計が12時を回り、7月25日、開会式当日を迎えた。リレーの最終経由地だったマジョルカ島から

バルセロナ港に、舟で運ばれた聖火が2時間前に上陸し、市内45kmのリレーがスタートした。多くの関係者、市民、観光客がそれを出迎え、見届けた。私も我が家に宿泊していた韓国、メキシコからの友人達と共に港のシンボル、コロンブスの塔の真下に陣どっていた。港と、五輪のメイン会場となるモンジックの丘は、直線距離では2km余りしかないが、その両方で花火が30分近く打ち上げ続けられた。更に、港に並ぶ船が次々に、低い長い汽笛を連続的に鳴らし始めた。その荘重なハーモニイが身体の中に響き渡った。コロンブスの塔とカタルーニャ広場を結ぶランブラス通り(約1.5km)は普段でも散歩を楽しむ市民や観光客で賑わうのだが、この時ばかりは歩けない程ぎっしりと人垣ができた。カタルーニャ地方旗や五輪旗を手にしている人も多かった。第一走者に選ばれた地元のバスケットボールのスタープレイヤーの姿が見えた時、大きな歓声と拍手が起き、周囲には感動と興奮を表わす言葉が飛び交った。

人の群にさえ切られながらも聖火は少しずつ前進してやがて視界から消えた。帰路、時々、爆竹の音や歓声がきこえた。行く先々で大歓迎を受けながら、真夜中のリレーは進行したらしい。

# 環日本海時代の

## 国際交流に向けて

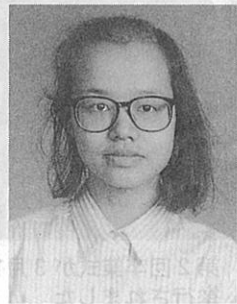
国際交流委員長 教授 鍋田英彦

国際化時代と言われて久しいが、本学は開学以来一貫して環日本海諸国を中心とした大学との国際交流を積極的に推進してきた。既にアメリカの北アリゾナ大学を始め、ロシアのビロビジャン国立教育大学、ハバロフスク国民経済大学、中国のハルビン師範大学、黒龍江大学、韓国の東義大学といった大学との交流を進めつつあり、この幾つかの大学とは交流協定を結び、学术交流、留学生交流を実現している。

環日本海圏の研究は本学にとっ て、新潟という恵まれた位置力を活かした研究・教育上の理念になっている。さらに来年四月に増設が予定されている人文学部環日本海文化学科のスタートに伴って、この分野の研究が経済の領域に止まらず、言語・文化の領域にも拡大し深化されていく方向にある。そのことを通して、本学は環日本海圏に関する研究・教育面の拠点として独自性を発揮していくことを目指している。

そもそも、国際化なる概念を解

釈することは容易ではないが、私見によればヒト、モノ、カネ、情報、文化、ライフスタイル等が国境を越えて広く交流する状態を指すものと考えられる。既に経済の世界では輸送手段や通信手段の発達に支えられ、ヒト、モノ、カネ、情報の国境を越えた交易が日常化しており、ボーダレス・ワールドの傾向を強めている。しかし経済のボーダレス化は、ともすれば貿易摩擦や保護主義を生み、逆に国境意識を強くするボーダフル現象をまねく懸念もある。その意味で国際化の発展には難題も少なくない。大学における国際交流とは学問を通して相互理解を深め、共に啓発し合うことにある。その原点は人と人との出会い、心と心のふれあいにあるだろう。新入生、在学生諸君は世界の潮流を見定め、国際交流の担い手として大いに雄飛してもらいたい。外国を知ること、日本を知ることなのである。



3年 築井 一 絵

私は昨年の三月から約二ヵ月半の間、中国黒龍江省哈尔滨市にある哈尔滨師範大学に留学する機会を得ました。中国での友達と語り合い、冗談を言って笑ったり、また、少し緊張しながら一人でバスに乗って買い物に行ったりと、そ

## 中国留学体験

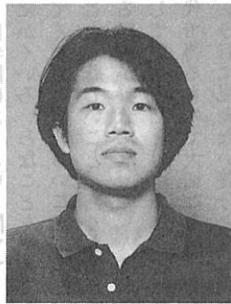
3年 築井 一 絵

んなことをしている内、あっという間に過ぎてしまった二ヵ月半でした。むこうで出会った友達は、素朴な飾り気のない温かさや厳しい優しさを持った人達でした。そしてその方達の明るさは、私の「カタそうな国中国」というイメージを打ち破りました。

## 大きい！ アメリカ

3年 酒井博正

思った。知っているというよりそれがアメリカ人の生き方なのだろう。特に、それを感じたのは自然の使い方である。ハイキングに行ったり、川で泳いだり、乗馬を楽しんだり、自然に解け込み、大人も無邪気に子供のように楽しんでいる。このような光景は日本ではあまりみることができない。このアメリカ人の「遊び心」は日本人の



「おどかしい！」アメリカ滞在の中この言葉を何回叫んだことだろう。建物、自然、食べ物、そして人間。やはりアメリカは大きかった。

今回僕がいた町は早く言えばいなかである。しかし、そのいなかでこそ本場のアメリカらしい生活というのを見ることができたと思う。アメリカ人は生活の楽しみ方というのをよく知っているなと

メッセージを良い意味で裏切ってくれました。これからは、こういった機会をできるだけ多くの方々が持てるような環境整備を進めてほしいと思います。最近さかんに国際交流の推進が叫ばれていますが、本当の意味での交流は、一人一人が異国の人と一緒に笑い合えるような喜びを感じることから始まり、根ざしてゆくものだと思います。

私たちが見習わなければいけないところだと思った。今回この留学で外から日本という国を見、あらためて自分自身を見つめなおすことができたこの一ヶ月間は僕にとって大きな自信となった。





# 第一期生より

平成四年卒



佐藤 晃弘 (暢明治屋)

産大生のみなさんいかがお過ごしですか。私が卒業してから早一年がたちますが、社会人としての自己の確立までには、いましばらくの時間が必要のようです。この一年を振り返ってみても、自分でも何をしてきたのかわからないままに時間が過ぎてしまい、得たものといえば、右手中指にできた「ペンだこ」とスニーカーファミコンぐらいなもので、卒業間際になって学生生活四年間の時の流れの早さを感じると語り明かしたことなど比べものにならないほど、あっという間に過ぎてしまいました。しかしそんな中で、自分が少しずつ変わってきているのも事実です。山形県出身ゆえに「山ちゃん」と呼ばれ、くだらない話をしてはつっこみを食らい、そういった私のベース（基本）は変

わっていないはずなのですが、未熟者なりの社会人意識が生まれてきているのかもしれない。実際そうではなくてはいけないのですが、一年経過した私の実情はこれに止っています。その私がみなさんにグッドアドバイスをするなど言語道断。

私の旅はまだ始まったばかり。みなさんもまた、旅の途中。場所は違っても同じ時代を旅する旅人です。どんな旅をするかで未来が変化していきます。同じ時代を旅するもの同士、がんばっていきましょう。



渡邊 貴美香 (柏崎市役所)

一期生として卒業してから、はや一年が過ぎます。友人の多くは柏崎を離れてしまいました。私は柏崎に残り、市役所に勤めています。卒業してからも、すぐそばで皆さんの活躍を見守っているというのには、幸せなことだと思っています。自分でも不思議なくらい、この学校は私にとっていとお

学生時代は、自由で伸び伸びとされていて、やる気さえあれば、どんなこともできるチャンスがたくさんあったことを、今更ながら痛感しています。「だいたいこんなものだな」と勝手に自分の可能性の器を小さくしてはいませんか。皆さんには、図々しくらしいの夢を持って、食欲になってほしいと思います。

四年間はあっという間です。とにかくいろいろなことをやってみてください。楽しいこと、つらいこと、悲しいこと、ありとあらゆる経験が養分になって、人は成長していくのだと思います。学生時代で得るもので大切なのは、そういう目に見えない養分と、友達かなあという気がします。

一生の思い出になるような、四年間にしてください。皆さんのご活躍をお祈りしています。



第2回卒業式が3月19日(金)に  
挙行されました

# 校友会通信

# 編集後記

広報委員 吉村 孝司

日本海にも静けさが戻り、今年も赤坂山に桜の便りがとどく季節となった。新潟産業大学も6度目の春を迎える。

二百三十二名の卒業生を社会に見送り、新入生を迎えるこの時期が、大学人として最も感慨深い。新しい大学のあり方として、本学が開学してからの五年間、それは試験の時であったように思われる。本学関係者とはもとより、地元の方々のお力添えもいただき、ここに新たな季節を迎えることができた。そして、いま新潟産業大学はさらなる飛躍を遂げようとしている。環日本海時代到来を期しての新学期(人文学部)の開部を来年度に控えて、今年が準備の仕上げの年となる。すでにこの構想に基づく交流はさかんであり、現在も4名の本学学生が中国ハルビン師範大学との交換留学生として現地で勉学に励んでいる。

こうした本学の発展も、その礎となるのは学生の皆さんに他ならない。今年も多くの学生を本学に迎えることができたことは何よりも喜ばしいことである。

新入学の皆さん、心よりおめでとう。

校友会では、去る二月六日本部役員会を開催、事業計画の一環として専門委員会から提出されたつぎの二規定を審議、承認可決した。平成五年四月一日から施行。学生の有効な利用を期待している。規定の詳細や申請等は大学総務課校友会係で。

・学生海外研修ならびに国際交流貸付金規定

新潟産業大学の在学生を対象とし、海外短期研修や国際交流事業に参加する者に対しての貸付援助

・学生部活動補助規定

学生部活動を通じて母校に顕著な貢献がみられる団体及び個人に対し、その活動に要する費用の補助



平成6年4月開設予定  
学部増設による校舎増築模型  
【現在人文学部認可申請中】